

VI 現職教育計画

令和4年度 七尾市立七尾東部中学校 学校研究概要

1 学校研究主題

主体的に学ぶ力の育成
～学びを実感できる授業づくりを通して～

(1) 主題設定の理由

学校生活アンケートによると、授業のあいさつやベル準、私語なしなど、どの項目においても肯定的回答が大変多い。それに対し、将来の夢や目標を持っている生徒や、家で自分で計画を立てて勉強している生徒の割合は高くはない。また、課題提出状況も学年が上がるにつれ、悪くなる傾向がある。そこから、本校生徒の現状として、授業を大切にしている生徒の割合が多いと言えるが、自分から学んだ内容の定着のために学習をしたり、学んだ内容が自分の将来につながっていると感じたりしている生徒の割合が少ないと言える。そういった課題に対し、主体的に学ぶ力の育成が必要であると考え、本主題を設定した。

(2) 副題設定の理由

学校生活アンケートによると、「授業の内容はわかった。」「授業でできるようになった。」と肯定的に回答する生徒の割合は大変多い。しかし、多くの生徒は「わかったつもり」「できたつもり」になっているため、主体的に学ぶ力が弱いのではないかと考える。学びが実生活や将来につながっていると感じる授業づくりが主体的に学ぶ力の育成につながるであろうという仮説のもとに、副題として設定した。

評価の観点	肯定的回答 (%) A+B				1 学期末との比較
	1年	2年	3年	全体	
授業の最初と最後、しっかりとしたあいさつをした。	96%	99%	100%	98%	○2
ベル準ができた。	97%	99%	100%	99%	○2
挙手に挑戦した。	70%	47%	56%	58%	△3
私語をしなかった。	91%	90%	94%	91%	○1
授業のノートやワークシートに、課題を書いていた。	95%	98%	97%	97%	○1
授業のノートやワークシートに、まとめを書いていた。	94%	96%	96%	95%	±0
授業の内容はわかった。	93%	93%	94%	93%	○3
授業でできるようになったことがあった。	95%	95%	95%	95%	○3
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	89%	88%	94%	90%	○1
授業では、自分の考えを話したり書いたりしている。	88%	80%	93%	87%	○1
授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したり組み立てを工夫したりするなどしている。	81%	76%	86%	81%	±0
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	87%	81%	86%	85%	△3
自分の考えや意見を表現することは得意だ。	68%	51%	63%	61%	△1
将来の夢や目標を持っている。	71%	65%	71%	69%	△3
家で自分で計画を立てて勉強をしている。	71%	69%	82%	73%	○1

2 目指す生徒像

○学校経営ビジョン・重点目標

「自分で考え、判断し、行動する」

○七尾東部の定義する学力

「主体的に課題に取り組み、習得した知識・技能を活用して協働的に課題を解決する力」

- ・ 自己の行動目標を設定し、またそれを振り返って次につなげることのできる主体的な態度を持った生徒。
- ・ 協働的、対話的な学習活動を通して、既習の知識・技能を活用して、自分の考えを広げたり深めたりできる生徒。

3 研究仮説

すべての教科において、教科の枠を越え、単元の中にアクティブラーニングの視点および適用問題を位置づけた授業を計画的に実施すれば、生徒の活用力ならびに主体性は向上するであろう。思考・判断・表現する「学び合う」場面を中心とした授業を行えば、またそれを位置づけた単元計画を実施すれば、生徒の活用力ならびに主体性は向上するであろう。

4 研究の重点

「いしかわ学びの指針12か条【12か条プラス】」との関連

(1) 活用力を高める授業づくり

2条：自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成

(2) 学力・学習を支える基盤づくり

6条：よりよい解決のための質の高い学び合いのプロセスの重視

8条：よりよい学習習慣・生活習慣の定着

(3) 指導改善を進める体制づくり

11条：現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立

5 具体的な取組

(1) 授業づくり

- ①主体的に学ぶ姿を引き出すために、必要感と知的向上心を喚起する課題設定を行う。
- ②対話的な学びとするために、「学び合う」場面を位置づけた単元計画を行う。
- ③深い学びを目指して、「適用」の場面を位置づけた授業スタイルを確立する。
- ④その他

- ・ 1人1台端末を学習指導、個別学習、協働学習の場面に活用し、授業改善を図る。
- ・ 授業づくりについて、学習集会や校内研修会を通じ、生徒と生徒、生徒と教師、教師同士が共通理解を図る。（「七尾東部スタンダード」「授業スタイル」）

(2) 基盤づくり

①帯タイムの実施による学力補充

- ・ 基礎学習（昼10分）の時間を設定する。
- ・ 基礎学習は、週ごとに教科を指定し、火～金でドリル学習を行い、月曜日に確認テストを行う。

②家庭学習の充実

- ・ 曜日毎に教科を定め（曜日課題）、家庭学習の調整と計画的な実施を行う。
- ・ 金曜日の課題（週末課題）として帯タイムのドリル学習と類似した内容のプリントを配付することで、基礎学習の定着を図るとともに、課題に取り組む目的意識を高める。

- ・テストウィーク（定期テストの10日前）期間に家庭学習時間調査を行い、結果を可視化・掲示し、意識の向上を図る。

③学習強化週間の設定

- ・強化週間を設定し、帯タイムや授業、課題を組み合わせる計画を立てる。
- ・教科部会が中心となり、学年の枠を越えて、学習状況を把握し、計画を立てる。

④ICTの活用

- ・1人1台端末と高速通信回線、電子黒板等、機器と環境の整備をし、活用を推進する。

(3) 指導改善を進める体制づくり（「学力向上ロードマップ」参照）

- ・毎月1回（職員会議前）のチーム会議を設定し、共通理解と共通実践を図る。
- ・PDCAの連動のため、チームリーダー会議（＝研究提案（PA）チーム会議）を週時程内に設定する。
- ・研究提案（PA）チームからの提案について、校内研修会や職員会議で共通理解を図る。
- ・研究推進（D）チームの中にモニタリング機能を設定し、確実な実践につなげる。

【総括チーム ◎学校長・教頭・主幹教諭・研究主任】

方針決定と目標設定
実施状況のモニタリング

【集計分析チーム ◎進路指導主事・進路指導部員】

学力調査採点・入力・分析スケジュール提案（分析シート作成）
現状把握，原因分析，課題の明確化

【研究提案チーム ◎研究主任・研究補佐・チームリーダー】

授業改善・学力向上プラン提案
校内研修・若プロ研修で教育情報を提供

【研究推進チーム ◎研究補佐・他全員】

授業チーム：○研究補佐・生徒指導部員・教育相談部員
基盤チーム：○基盤チームリーダー・生徒会部員・保健環境部員
学力向上プラン実施
校内研修（授業研究会）運営
取組の環境整備と実施状況のモニタリング
GIGA スクール推進

【検証・研修支援チーム ◎主幹教諭・教務部員】

定期テストでの活用力育成問題分析による目標と結果の比較
アンケートによる共通実践の達成度と、学びの実感についての実態把握
学力向上プラン実施状況と成果の検証
検証計画（校内研修会・若プロ研修）

6 検証方法（全体の検証については、目標値と現状の比較をもって行う。）

- (1) 学力調査・評価問題、定期テストの懸賞問題の正答率・誤答分析を実施し、達成度を確認する。
- (2) 学期ごとに質問紙調査を実施し、回答状況の推移を確認する。
- (3) 研究推進チームによる定期的なモニタリングにより、実施状況を確認する。
- (4) 学力調査・評価問題の研究と誤答分析を行う。
- (5) 週案、ロードマップとその別葉に実施状況を可視化し、実施状況を確認する。

7 学校研究組織図および研究計画（別紙「学力向上ロードマップ」参照）

8 学校研究全体構想図

